

明治三十九年六月

露國新公債發行
関心在オオサ領事了報
告ニ付

外務省

一 発行價格ハ八八%但シ全額一時支拂、場合限
 一 應募者ハ四期に分ケ支拂、得但シ比、場合
 於テハ年五%、割合ヲ以テ拂込全額、利子
 ヲ附スル、其拂込割合ハ下、如シ
 應募確定ノ時 二六%、八月六日 二〇三/四%
 十月六日 二〇二/四% 四年二月六日 二〇一/四%
 一 前記条件、外高ハ然布告セシキ条件アリ
 例ハ銀行家ノ年數料ヲ三分ト規定スルカ如キ或
 又多向、二ヶ年間露國政府、於テ新外債ヲ
 募集セスト云フ、約款、如キ是ナリ
 抑モ該新公債、計畫當時、於ケル政府、企圖ヨリ
 其今日成功ヲ觀ル、至リと迄、裏面、顯ホハ素ヲ當
 事者ノ機密事項、屬シ局外者、於テ容易、之ヲ窺知
 在 外 公 館
 スルヲ得サルハ勿論又其真偽如何、付テモ吾人、於テ濫
 リニ揣摩ノ推論ヲ下スベキ、非ニ素ヲ論ナキモ其外面
 顯ホキ事、實ニ及諸報通ヲ綜合シ、誓量スルハ吾人
 稍々其真相ト認メ得ヘキモノヲ知悉スル、難カラズ即
 ヲ今試ミ、之ヲ述ヘン、露國ハ昨年以來、財政逼迫
 ノ極度ニ達シ、之ヲ救済スル為メ、外資ヲ輸入シ、之ヲ
 管若心スル所アリ、カ偶々國內擾亂相絶、各國資本
 家、危懼心ヲ惹起シ、シテ固リ外債ヲ得、之ヲ途全
 ヲ杜塞シ、政府ハ準備硬貨ヲ以テ國庫、支拂ニ充
 ツルノ已メ得サルニ至リ、較シテハ全債本位、危フセントスルノ
 虞ナキニ有テサリキ、然ルニ本年、度豫算不足額、ノ換
 補、且ツ昨年度、屬スル軍事費、殘額、支拂ヲ為ス
 必要、眼前、迫リ来ナリ、又國內騷亂鎮撫、對スル

費用は日一、多ク加へ之が財源ヲ求メサルヲ得サルニ至
リシカバ政府ハ昨臘以来旧藏相タリシコフツオフレソ屬
々佛獨ニ派遣シ或ハ大藏省外國駐在官・訓示シ
テ專ラ外債計畫ニ斡旋セシメ高キ國內ノ銀行家
ヲ露都ニ招集シ内債募集、國ニ協議スルヲアリキ
而シテ諸外國ハ露國ノ政界動乱、劇甚クハ顧慮
ス所アリテ容易ニ露國ノ外債募集ニ應ズルコト肯
ヒズ又露國內、露國銀行家ニ高キ工業、衰微ニ伴
ヘル金融通白・遭遇ス際ナレバ政府ノ希望ニ應ズル
ニ由ラレタル也 露國ヨリテ政府ハ公債募集ノ企圖ハ毎々
中折以テ甚甚今日に至リタルモノトス然ルニ今ヤ國庫空虚
始ニ準備モ稍マ成リ又々國庫ノ期日ニ向後數週
間ニ迫リ人心稍ヤ靜謐ニ歸シ又々内外政界ノ事情

在外公館

ニ募集ノ容易ナラシムモノアリシカ爲メ從來行極ム迄
ナリシ以外債モ今回ハ遂ニ好氣運ニ属シ遂ニ成功ヲ
告ケルコトナリ又由來左ノ如キ魂膽ノ存スル新公債ノ
事ナラシ其条件、底募集ニ取リテ非常ノ有利ナルニキハ
勿論、決然シテ前記ノ約款・於テモ明カニ之ヲ定規知
シ得ヘシ之ニ及ビ該公債ハ政府ニ取リテハ甚ク苛重ノ負
担ヲ加ヘシモノト謂ハサルベカラズ今試ミニ該債ノ結果ヲ
概算シニ募集總額ハ億四千三百七十五万雷ニモ
賣出價格ハ八〇%ナレバ政府ノ手取リハ七億四千二百
五十万雷ニ過キズ而シテ其内初年ノ利子トシテ支拂
フベキ分半二百五十万雷ヲ控除スル其殘額ハ七億
万ニシテ其他ニ高キ銀行家ノ手数料三分即ニ千
五百万ノ支出ヲ要スルヲ以テ結局政府ノ純収額ハ六

億七千五百萬に過らざらんべし

是に依りて之を觀るに該公債の利率年五%と稱ス
ルに其實六%、該當スベク又々應著觀中二億
五千萬番の先年巴黎及伯林に於て借入レる短期
外債、消却ニ充ルル義務アルヲ以テ政府實際、收
入二億二千五百萬に過らざる即チ露國政府の之レヲ以
テ本年豫算不足并ニ軍事費殘額、支弁ニ
充テラトスルモノ、如シ

該新公債ニ對シテ露國人の意向ヲ諸新聞、評論
ニ據り忖度セリ、彼等ハ主トシテ政治的觀念ヲ打算
シ是非ノ評論ヲ加ヘタトスルカ故ニ結局其評論タルヤ
政府側ト民間互對派ト、輾轉的感懐、又響トシテ
觀ル外ナキナリ然リ而シテ刺下露國の政治革新、滿

在外公館

中ニ沈淪シ民間互對黨ハ公然政府ニ對シ政治革新
新ヲ務要スルニ為テ強硬ニ及抗運動ヲ為レ政府
ハ亦之レヲ壓迫スルニ為テ兵カヲ使用シタル結果迄未
國內各所、於テ屬々流血淋漓、活劇ガ演セラレシ
トハ已業ニ世人ノ熟知スル所ナガ民意ノ向テ所遂ニ兵力
之ヲ減却進スルニ由テ爾後今日、至ルコト民論ノ振
起益々激甚トナリ隨テ官民ノ互目爭鬪絶之ナク現
今日ニテハ露國全國中殆ント戒嚴令、施行セラレサ
ルニ至リ有様ニテ之ニ要スル鎮撫費ノ如キハ巨額ニ
達シ政府ハ之ガ補充ノ道ヲ講スルニ困難シクナリ然リ而シテ
從來及對黨ハ現政府ノ財源ヲ涸竭セシメハ政府ヲシテ
政治的讓歩ヲ為サレハ最モ有利、手段ト思惟シ或ハ
租稅支拂ノ停止ヲ疾呼シ或ハ斯金引出リ觀勸説ス

ル等各種ノ手段ヲ尽シテ官憲ヲ若サレノ策ヲ講セリ就中
 革命党ノ如キハ政府ヲシテ全然破産ノ域ニ沈淪セン
 ント欲シ内外各方面ニ於テ隱ニ陽ニ公債募集ノ計画
 ヲ阻撓スルヲ努メリ現ニ革命主義ヲ以テ称セラル。文
 豪「ゴルキー」ガ書ヲ倫敦「タイムズ」寄セ西歐人士ニ戒飾
 スルニ露國ノ外債ニ慮セサルヲ以テシカカキ或ハ又氏ガ遠
 ヲ米國ニ渡ルニ臨ミ日孫ノ主意ヲ米國人ニ声言セシカ如
 キハ即チ過激党ノ希望ヲ公然表明セシト謂フヘキ
 ナリ而シテ露國內ニ存立憲民主黨ノ如キハ政府ガ國
 會開設ヲ焦眉ニ控ヘテ急遽巨額ノ外債募集ノ策
 ニ出テタルハ國民ノ代議權ヲ蔑視シタルノ所為ニテ國會ニ對
 シ暗ニ反抗ノ武器ヲ準備セシモノナリト云ヒテ一方ハ現政府
 ガ國民ニ對スル故意ヲ鳴ラン他方ハ政府ガ民権蹂躪
 ノ措置ヲ痛ク非難セリ而シテ茲ニ特ニ最モ注意スヘキハ
 彼ノ保守派ノ策斗ヲタル「ノシケニスキ」ノ議論是ナリ候ハ
 自家ノ機關新聞ニ於テ論ヒテ曰ク今回ノ公債ハ政府
 ガ國會ニ對シ概先ヲ制シタルカ如ク当局者ガ滿腹ノ得
 意ヲ表彰スルカ如キハ余ノ最モ解スヘカザル所ニシテ余ヲ
 以テ之ヲ觀ルニ尚モ國會ノシテ公債募集ニ參與セシノタラ
 ンニハ少トモ現物款ヲハ露國ニ取リテ有利ナル条件ノ
 下ニ募集シ得タリシヤ敢テ疑フ容レスト云ヘリ而シテ政府
 機關新聞及保守派側ニ於テハ極力之ガ弁明ニ努
 ヲラ曰ク今日ハ露國財政困難ノ秋ニシテ一日モ猶豫スヘキ
 場合ニ非ズ政府ガ公債募集ノ策ニ出テタルハ誠ニ慮
 急應機ニ処スル策ヲ善知セシモノニシテ彼等ハ旧負債
 ニ屬スル義務ヲ果タシ新ニ開設セシトスル國會ニ對シ

在外公館

当然ノ責務ヲ尽シタルニ外ナラズト云ヒ且ツ曰ク外債募集
 ノハ暴ニ勅裁ヲ経タル本年度豫算不足額ヲ補充
 スルノ手段トシテ政府が当然ノ職權ヲ執行シタルニ過キズト
 主張セリ之ヲ要スルニ今回公債募集ノ成功ニ就テハ
 政府ノ専ラ其成績ヲ誇張シ民主黨ハ國會開設
 向ヒ政府が資金ノ供給ヲ得タルハ暗ニ解散ヲ豫期シ
 兵カヲ準備セルト一般ナリトテ之ヲ非認シ且ツ之ヲ以テ民
 主黨ノ失敗トシ大ニ警告スル所アラケド欲スルモノ、如シ
 將又新公債、對シテハ暴キニ獨國モ加入スベシトノ
 説アリシモ拘ハス今回獨國が之加入ヲ拒ミ高ホ政府
 内々銀行家、刻示シテ故ラニ度務セシメザリシハ暗ニ
 露國がアルジラス會議ニ於テ伊國ニ度援ヲ與ヘタル
 ヲ深ク怨答シ公舉ニ出テタルナリト云ヒ又英國が今回
 在外公館
 ノ外債ニ慮セルカ為メ獨國ハ感情ヲ害シ之加入セザリシ
 ナリゾト説クモノアリ然レモ親獨流及政府側ノ唱道スル
 所ニテハ獨露ノ手係ハ何等ノ出来事ノ為メニ少モ影響
 ヲ受ク所ナシト而シテ其獨國が今回ノ新公債、度募集
 ニ漏レルハ偏マ日國ニ於テ何時ニ内債ヲ募集シタルニ因ル
 モニシテ其他ニ何等政治的意味ヲ有スルニ非ラスト弁明
 セリ
 又露國新開中ニ從來自國ト政治上及對ノ地位
 立ケ殆ント大猿膏ナリサル間柄ニアリシ英國が今回新公
 債募集加入セルヲ見テ之ヲ以テ英國が露國對シテ政治方
 針變ニ兆候ト認シ其動機、由來スル所ヲ以テ日露戰爭
 結果ニ歸シテ露國ノ東洋政界ヲ變更セシ
 ソ隨テ英伊間ノ接近ヲ容易ナラシメタル云ヒ又伊國ハ已往

ニ於テ數十億ノ露國巨債ヲ所有シテ今回尚ホ独
手十二億法ノ出捐ヲ敢テセルハ佛國民ガ實際露國經
濟界ノ困難ニ對シテ熱知セルト又眼前支拂ヲ受クキ
短期公債ニ對シテ露政府ニ於テ償却ノ途ナキヲ知悉ス
一其原困ニ相逢ナキモ彼等ハ又露國公債ノ暴落ヲ
シテ意外ノ損害ヲ受ケムヲ恐レ露國ノ信用維持ノ
策トシテ不得已茲ニ出タルトモ或ハ露國ガモロコシ事
件ニ好意ヲ表シタルニ對シ之ニ酬ニ為ナリト論スルモノア
リテ象論歸一セサルガ如キモ之ヲ綜合比較スレバ亦タ以テ
露國輿論ノ一斑ヲ窺知スルヲ得ヘキナリ

明治三十九年四月二十八日

在外公館

在オテッサ

領事 任島亀太郎



外務大臣侯爵對西園寺公望殿